

京都府漁海況情報

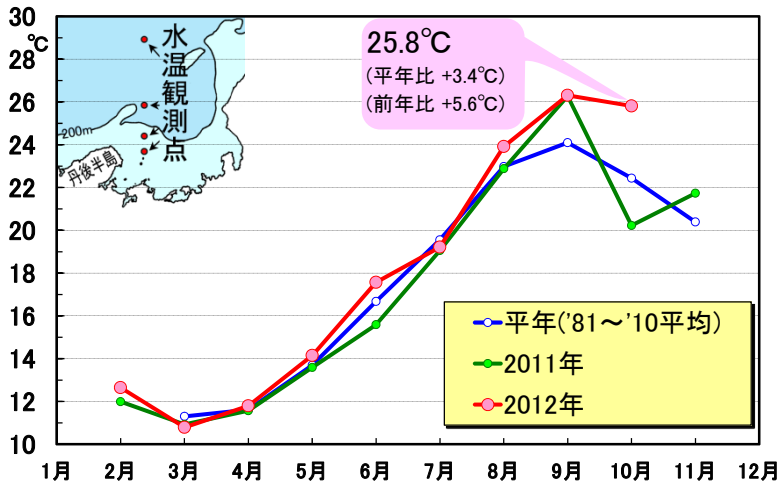
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話：0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況

【現況】

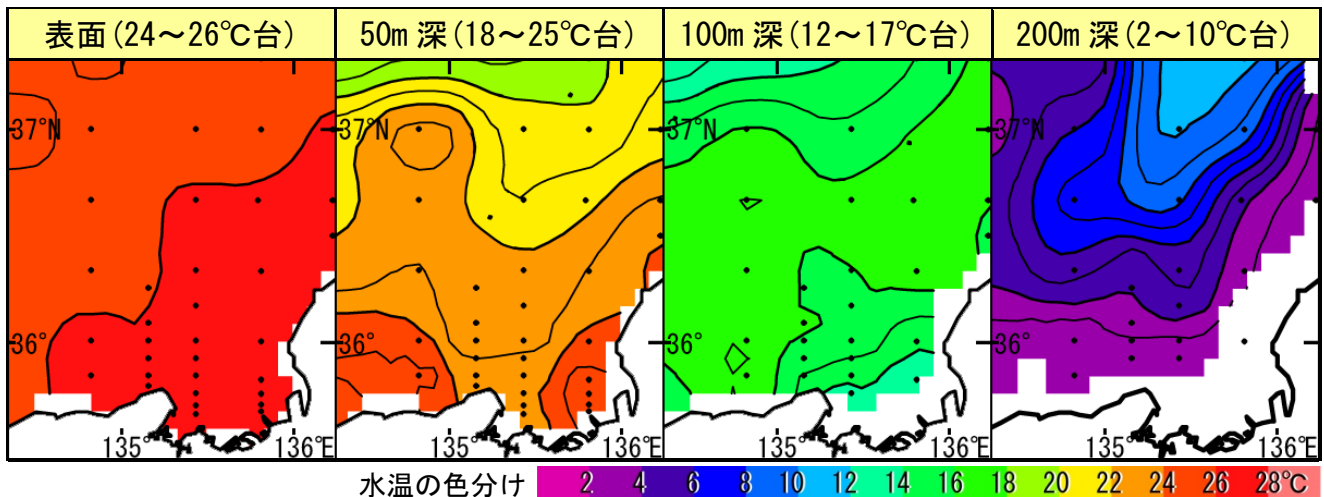
10月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年よりはなほだ高めで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2012年10月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元：気象庁、(独)日本海区水産研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年より高め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「平年よりやや弱め」で推移する見込み

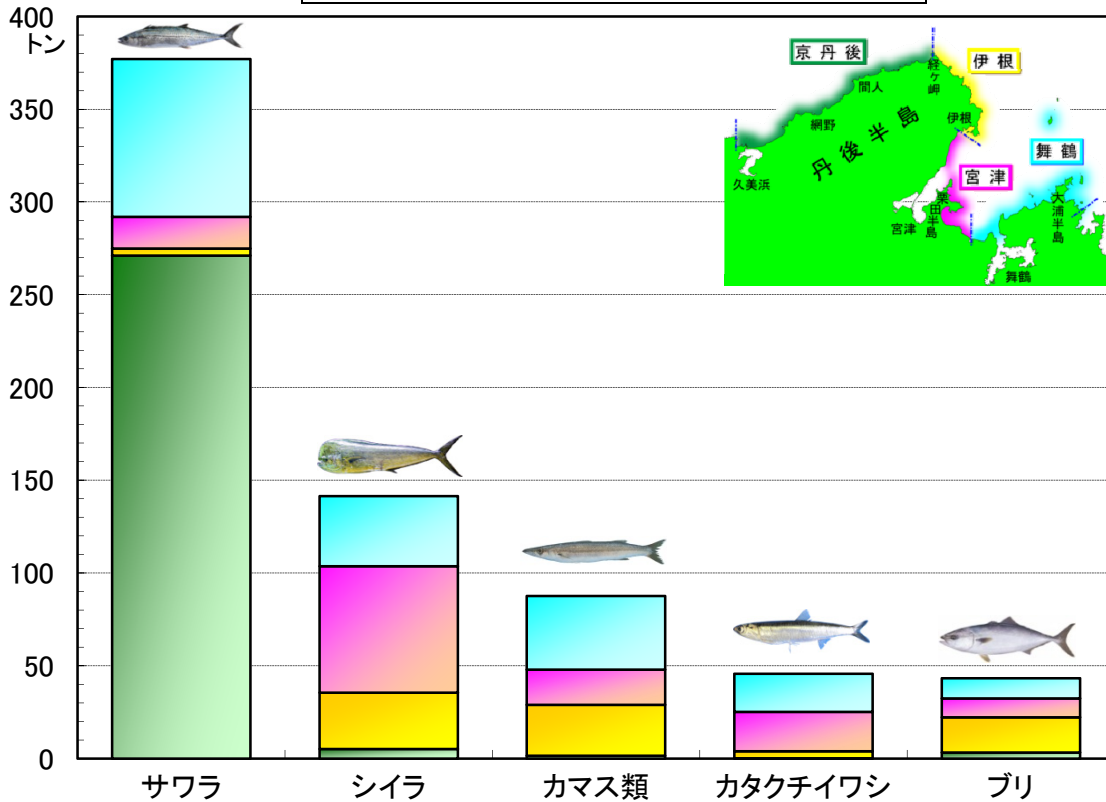
*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

漁模様 ～2012年9月～

【定置網漁業】

サワラやシイラ、アカカマスが好漁で、カタクチイワシやブリ、マアジなどが平年より少なめでした。全体の水揚量は前年の1.4倍および平年の9割弱でした。

2012年9月の地域別漁獲量(上位5魚種)

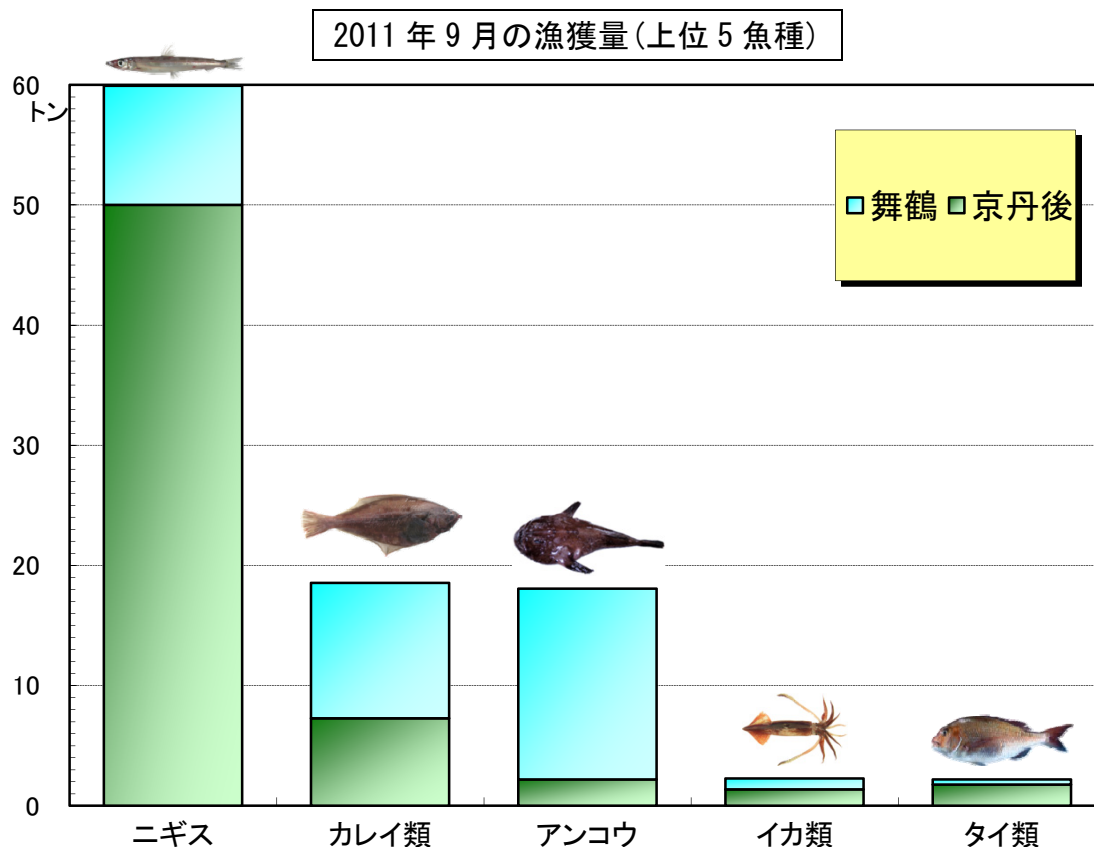


9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)		備考
サワラ	377.0	110.5 (341%)	266.6	(141%)	<サワラ> さごし銘柄(尾さ長 30~40cmの0歳魚, 尾さ長 50cm級の1歳魚)がほとんどで, それより大きなさわら銘柄は若干量でした。 <カタクチイワシ> 体長 3~6cm 級の小たれが中心でした。
シイラ	141.4	15.6 (908%)	65.5	(216%)	
カマス類	87.6	30.5 (287%)	33.9	(258%)	
カタクチイワシ(たれ)	45.7	92.8 (49%)	128.0	(36%)	
ブリ	43.3	98.3 (44%)	118.5	(37%)	
マアジ	34.4	82.1 (42%)	178.4	(19%)	<ブリ> つばす銘柄(尾さ長 24~34cm 中心)がほとんどで, はまち銘柄(尾さ長 45~49cm 中心)が若干量でした。 <イカ類> アオリイカ(秋いか)が 21.6トン, ケンサキイカ(白いか)が 7.4トン, ソデイカ(たるいか)が 1.0トンなどでした。
イカ類	30.4	43.0 (71%)	21.2	(143%)	
タチウオ	19.4	7.4 (264%)	9.2	(212%)	
シロサバフグ(さんきゅう)	16.9	19.1 (89%)	22.2	(76%)	
カジキ類	9.0	3.8 (234%)	12.7	(71%)	
その他	40.5	99.1 (41%)	99.3	(41%)	
合計	845.5	602.4 (140%)	955.4	(88%)	

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

6月～8月の休漁を経て9月より操業再開です。アンコウなどが好漁で、全体ではほぼ平年並みの水揚げでした。

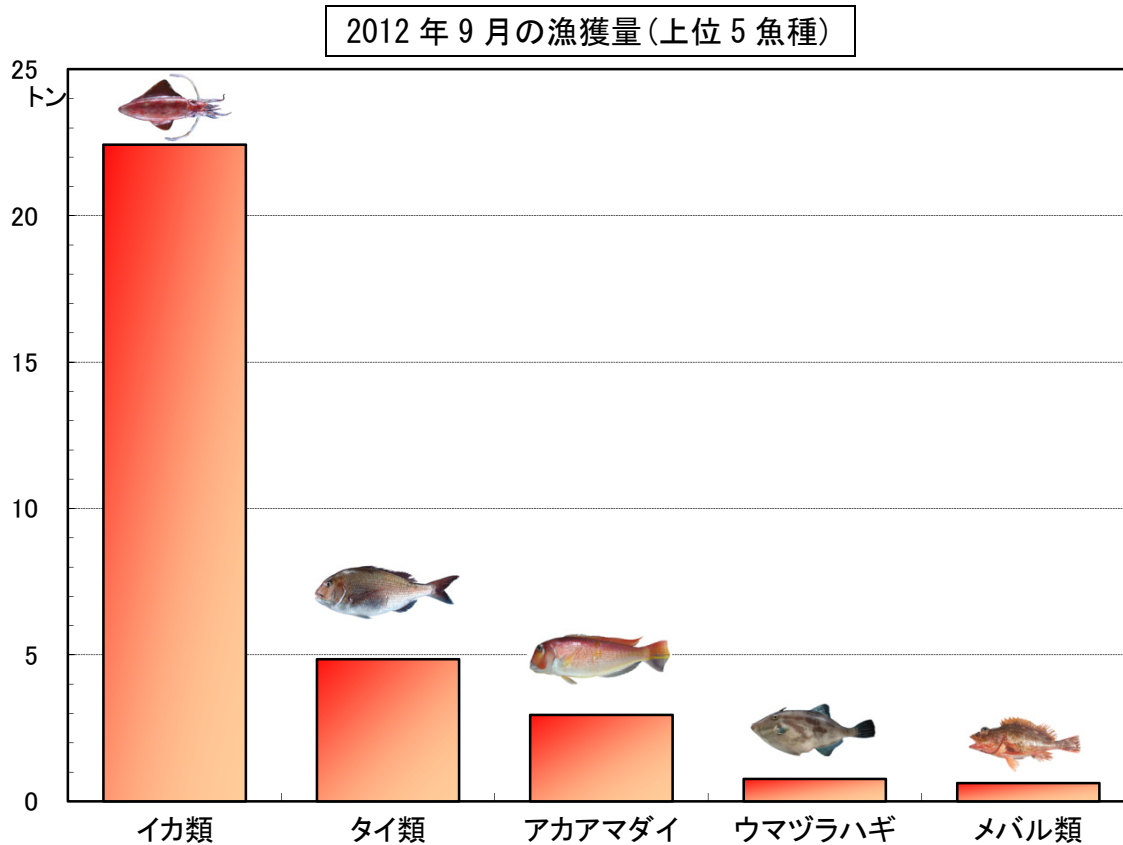


9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖きす)	59.9	56.4 (106%)	56.3 (106%)	<カレイ類> ソウハチ(えてがれい)が 4.9 トン、ムシガレイ(水がれい)が 4.8トン、ヤナギムシガレイ(さがれい)が 4.0 トン、アカガレイ(まがれい)が 3.9 トン、ヒレグロ(黒かれい)が 0.3トンなどでした。
カレイ類	18.6	15.0 (124%)	22.5 (82%)	
アンコウ	18.1	11.6 (156%)	11.5 (157%)	
イカ類	2.3	5.7 (40%)	2.7 (84%)	
タイ類	2.2	2.2 (102%)	2.3 (95%)	
タコ類	1.7	1.3 (129%)	2.2 (76%)	
マトウダイ類(ぼと)	0.9	0.3 (272%)	1.2 (70%)	
メバル類	0.7	0.5 (149%)	0.4 (175%)	
タラ類	0.5	0.1 (407%)	0.1 (1052%)	
カナガシラ	0.5	0.5 (107%)	0.7 (80%)	
その他	6.6	7.4 (90%)	7.4 (90%)	
合計	112.0	101.0 (111%)	107.3 (104%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

ソデイカが好漁でした。全体の水揚量は平年の約 1.4 倍および前年の約 1.7 倍でした。



9 月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚 種	2012 年	2011 年(前年比)	平年(平年比)	備 考	
イカ類	22.4	4.3 (527%)	10.0 (224%)	<イカ類> ソデイカ(体重 4~6kg 級中心)が 20.4トン, ケンサキイカ(白いか)が 1.6トンなどでした。 <タイ類> マダイが 5 割強, レンコダイが 4 割弱, クロダイとチダイが若干量でした。	
タイ類	4.9	4.9 (100%)	4.3 (113%)		
アカアマダイ(ぐじ)	2.9	2.9 (100%)	3.0 (99%)		
ウマヅラハギ(長はぎ)	0.8	1.4 (54%)	1.7 (45%)		
メバル類(もいお)	0.6	1.3 (50%)	0.7 (86%)		
ブリ	0.2	1.3 (17%)	1.3 (17%)		
マアジ	0.2	0.2 (98%)	0.3 (63%)		
スズキ	0.1	0.1 (145%)	-		
サワラ	0.1	0.6 (16%)	0.9 (10%)		
メダイ(たいしょうお)	0.1	0.2 (25%)	0.4 (15%)		
その他	1.5	2.3 (65%)	1.9 (75%)		
合計	33.8	19.4 (174%)	24.6 (137%)		

平年は過去 10 年平均

【トピック ～ズワイガニと寒ブリ～】

丹後の冬の味覚，ズワイガニと寒ブリの今シーズンの資源状況(推定)です。

<ズワイガニ>

漁の解禁を11月6日にひかえ，本年も8月下旬から9月下旬にかけて，海洋調査船「平安丸」でカニ籠による丹後沖のズワイガニ資源調査を行いました(写真)。今年の採捕状況は，過去5年平均に比べると，雄ガニ(甲幅9cm以上)が139%，雌ガニ(こっぺ)が338%でした。

雄ガニは，2008年漁期から取り組まれている水ガニ漁獲禁止(自主規制)の効果により，近年の資源水準は比較的高いといえます。雌ガニは，近年，それほど高い水準ではありませんでしたが，今年は新規加入群が比較的多いのが特徴です。なお，採捕したズワイガニは測定した後，標識票を付けてその場で放流しています。



<寒ブリ>

今冬の水揚げの中心になるとみられる2009年産まれの3歳魚(体重10kg前後)や2010年産まれの2歳魚(体重6kg前後)の資源量は多いようです(水産総合研究センター調べ)。

12月までの日本海沿岸(対馬暖流域)の表層水温は平年より高め，山陰若狭沖からの冷水域の張り出しはやや弱めで推移する見込みです(日本海区水産研究所調べ)。予測どおりの海況で推移すれば，日本海北部や若狭沖からの大型ブリの南下が鈍ったり，漁期が遅れたりすることも考えられます。

資源や海況の見込みなどから，今年度下半期の大型ブリの定置網漁獲量は近年並み※～やや少なめと予想しますが，各浜で豊漁となることを期待しております。

※過去10年平均：92トン

